

第 7 8 5 回 (2022～2023 年度第 19 回) 例会

2 0 2 2 (令和 4) 年 1 2 月 2 2 日 (木)

開催場所 メルパルク名古屋 担当 役員

1. 点鐘

2. ロータリーソング斉唱

3. ゲスト・ビジターの紹介

4. ニコボックス報告

前累計 3 2 9, 5 9 0 円

本日 _____ 0 円 (_____ 件)

累計 3 2 9, 5 9 0 円

目標 4 8 0, 0 0 0 円 (68.7%)

5. 出席報告

(出席数/補填数/会員数 出席率)

本 日 8 / 2 / 2 0 50.0%

前 回 3 / 5 / 2 0 40.0%

前々回 9 / 0 / 2 0 45.0%

先 月 53.3%

年 間

6. 幹事報告

①理事会予定

・ 1 月 1 7 日 (火) 19 : 00～

場所 : 未定

担当 : 奉仕プロジェクト委員会

②行事等 (参加者敬称略 点鐘予定時間)

・

7. 委員会等報告

・ 1 2 月 3 0 日 (金) 19 : 00～

場所未定

担当 : 加藤君

8. 近況報告

本日は割愛させていただきます

9. 会長挨拶

会長 石田 壽君



皆さん、おはようございます！

先週の土曜日、RCC 活動「コドミル in 西念寺」に参加の皆さんお疲れ様でした。

本日は、「生物多様性—SDG's の基礎に」というタイトルで、名古屋市環境事業局が「なごやのまちなか生物多様性緑化ガイドライン」素案をまとめたことが建通新聞に載っていましたので、簡単に紹介したいと思います。「SDG's の目標達成に向けた基礎となるため、生物多様性に配慮した緑化に取り組むことは、企業にとって ESG 投資や TNFD (自然関連財務情報開示タスクフォース) に対応できるとともに、グリーンインフラや SDG's に取り組んでいるとアピールできるメリットなどを盛り込む見通し。

都心の生きもの復活事業では、21～22 年度に名古屋ビルディングやグローバルゲート、マルエイギャラリーなどで生物多様性に配慮した緑化のモデル事業を実施中。モデル事業で得られた教訓として、都心の緑には、見た目の華やかさの他、管理のしやすさ、寒さ・暑さ・病虫害などへの耐性がある植物が求められており、結果的に外来品種や園芸種が多く使われていると分析。在来種や地域の固有種の活用といった施策は、まずは可能な範囲で行い、ステップアップしていくことが必要とした。

ガイドラインは、生物多様性に配慮した緑化を行い、生態系の回復を目指すとともに、生物多様性に配慮したまちづくりの機運を高め、名古屋の魅力向上につなげていくのが目的で、市内の都心部と周辺市街地を想定している。名古屋市には、東部丘陵地や西部の庄内川・庄内緑地、名古屋城、熱田神宮といった、比較的豊かな自然があり、生態系ネットワークのコアエリア（拠点）となる地域がある。都心部やまちなかのオフィスビル・住宅地で生物多様性緑化が進むと、生きものの移動が可能となり、市域全体がつながる生態系ネットワークの形成につながるとしている。」

この環境事業局の取り組みと久屋大通公園の PPFi で樹木伐採という住宅都市局の開発・街路樹の伐採等は矛盾しているように思えるのですが。緑生土木局でも住宅地の緑化等を推進していますが、縦割り行政の一つの弊害なのでしょうか。また、都心の緑の復活には、愛知県との連携も必要ですが、今の名古屋市と愛知県の関係では疑問です。協働の仕組みづくりでは、専門家派遣の他、認証・表彰制度、補助金といったインセンティブが検討されています。ガイドラインは本年度内の策定を目指しているそうです。

10. 本日のプログラム

「クラブフォーラム：上期活動の検証（役員）」



11. 点鐘

12. 次回例会案内

1月6日（金）19：00～

「新年例会」

場所：くずし割烹 クロノス

☆ 委員会報告、メーキャップ報告はお早めに

☆ 今月のお誕生日

19日 加藤 久雄様